

## 「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」

ヤクルトグループは「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します」という企業理念に基づきグローバルに事業展開しています。

また、コーポレートスローガンとして「人も地球も健康に」を掲げており、人が健康であるためには、人だけではなく、水、土壌、空気、動物、植物、そして人々が織り成す社会、これらすべてが健康でなければならないと考えています。

私たちは、「人と地球の共生社会を実現するバリューチェーン環境負荷ゼロ経営」を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」および「ヤクルトグループ人権方針」を定め、サプライチェーン上の環境や人権課題への対応を推進しています。また、事業を行う過程やバリューチェーンにおいて、直接または間接的に地球環境および人権に影響を及ぼす可能性があることを認識しており、「ヤクルトグループCSR調達方針」に基づいて、持続可能な原材料調達に取り組んでいます。

### 森林破壊ゼロに関する基本の方針

原材料の調達活動においては、特に、森林エコシステムを保護する重要性を認識しており、森林破壊※は、ヤクルトグループのマテリアリティである「気候変動」、「水」、「サプライチェーンマネジメント」等に関わるグローバルな諸問題と密接に関係しています。パーム油や大豆などの原材料については、そのサプライチェーンにおいて森林破壊のリスクがあり、水質・土壌汚染、生物多様性の損失といった森林破壊に付随するリスクも存在します。

また、森林は森林とその周辺に住む人々の生活を支えています。森林破壊によって住む場所や生活の糧が奪われるなど、先住民族や地域コミュニティの権利が侵害されるリスクがあることを認識しています。

このような観点から、自然資本や地域社会に支えられて事業を展開するヤクルトグループの持続可能性にとって、森林破壊は対応すべき重要なビジネス上のリスク・脅威と捉えています。

このような背景を踏まえ、私たちは「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」(以下、当コミットメント)をここに定め、森林破壊リスクが高い原材料に関わるサプライチェーンにおいて、森林破壊をゼロにすることを目指します。

### 取り組みおよび目標(KPI)

#### 1. 適用範囲

当コミットメントは、ヤクルトグループの食品・飲料、医薬品および化粧品の生産に必要な原材料調達に関わる国内外のすべての連結事業所を対象とします。

また、ヤクルトグループは、自社商品やサービスに関わるすべての取引先に対して当コミットメントを支持することを期待し、サプライヤーに対しては理解・協力すること、また、サプライチェーンにおける森林破壊ゼロを共に達成していくことを求めます。

## 2. 森林破壊リスクが高い原材料の責任ある調達

ヤクルトグループは、原生林、保全価値の高い(HCV)地域、炭素貯蔵量の多い(HCS)地域および泥炭湿地林からの原材料調達は行わず、サプライチェーンにおける森林破壊ゼロを目指します。森林破壊リスクが高い原材料として、紙・パルプ、パーム油、大豆、乳製品(脱脂粉乳等)を特定し、それらの持続可能な調達について、目標・KPI を定め、サプライチェーンにおける責任ある調達を推進します。

※定量目標等については、継続的な取り組みの改善に向けて、適宜見直し・更新を行います。

### (1) 紙・パルプ

ヤクルトグループが使用する紙製容器・包装資材において、バージン素材を使用することを減らし、持続可能な調達を推進します。

また、紙製容器・包装資材以外の各種印刷物・事務用紙・販促資材についても、FSC®などの環境に配慮した紙への切り替えを推進します。

< 定量目標 >

2025 年度末までに、紙製容器・包装資材のために調達する紙・パルプ 100%を FSC®などの国際認証品あるいは再生紙にします。

### (2) パーム油

ヤクルトグループは NDPE 原則を支持し、パーム油の持続可能な調達を推進します。

< 定量目標 >

2025 年度末までに、調達するパーム油100%を、RSPO 認証品(MB 以上)にします。

2030年度末までに、1次原料として調達するパーム油の生産地までのトレーサビリティ 100%を達成します。

### (3) 大豆

ヤクルトグループが使用する大豆について、持続可能な調達を推進します。

< 定量目標 >

2030 年度末までに、1次原料として調達する大豆について、農家などの原料生産地までのトレーサビリティ 100%を達成します。

※大豆の認証品については、その供給状況を鑑みながら、使用を検討していきます。

### (4) 乳製品(脱脂粉乳等)

乳牛の飼料に森林破壊リスクのある大豆等が含まれる場合があるため、ヤクルトグループが使用する脱脂粉乳・全粉乳などの乳製品についてもトレーサビリティを把握し、持続可能な調達を推進します。

< 定量目標 >

2030 年度末までに、乳業メーカーといったサプライヤー等との協働により、酪農家などの原料採取地までのトレーサビリティ 100%を達成します。

## 3. 推進体制の確立

当コミットメントに基づいた取り組み内容については、取締役である経営サポート本部長を委員長とする CSR 推進委員会等で審議、検討します。重要事項については取締役会に報告します。ヤクルトグループにおいて当コミットメントを確実に達成していくために、役員および従業員に対して、必要な教育および能力開発を行います。

#### 4. サプライヤーとの協働

サプライチェーンにおける森林破壊ゼロを達成するために、サプライヤー等と協働して、重要原材料のトレーサビリティシステムの構築などの取り組みを推進します。

サプライヤーの取り組みに対しては、年に一度といった定期的な自己評価アンケート(SAQ)や責任ある調達に関する国際情報共有プラットフォームなどを通じて調査を行い、森林破壊リスクを含む持続可能な調達に関するリスクの把握を行います。

サプライヤーのコンプライアンス状況を確認し、法令違反などの改善が必要な点が確認された際には、実施期限を設けて、是正に向けた対応・エンゲージメントを行います。

#### 5. 情報開示

ヤクルトグループは、当コミットメントに基づく取り組みの進捗状況および結果を、ウェブサイト等で、年に一度など定期的に情報開示します。

制定：2023年3月22日

※当コミットメントにおける「森林破壊」の定義は、以下のとおりです。

- ・ 自然林、HCV および HCS 地域の農業または森林以外の土地利用への転換
- ・ 自然林、HCV および HCS 地域の植林地への転換
- ・ 深刻かつ継続的な劣化による自然林、HCV および HCS 地域の消失

(参考)

H C V: High Conservation Value の略称で、生物多様性、水資源の保全、文化、景観などを考慮し、貴重で保全価値が高いこと ※詳細は FSC<sup>®</sup> 森林管理認証の原則と基準に基づく

H C S: High Carbon Stock の略称で、土地に有機物が高濃度で含まれており、温室効果ガスである二酸化炭素などの炭素を大量に貯蔵していること

F S C<sup>®</sup>: Forest Stewardship Council<sup>®</sup>の略称で、国際的な森林認証制度を運営する非営利組織

NDPE: No Deforestation, No Peat, No Exploitation の略称で、サプライチェーンなどで森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、人権面での搾取ゼロを目指す方針・原則のこと

RSPO: Roundtable on Sustainable Palm Oil の略称で、パーム油に関わる 7 つのステークホルダーによって構成される非営利組織であり、持続可能なパーム油の国際認証制度を持つ